

はじめに

二〇一八年度から実施される「特別の教科 道徳（道徳科）」は、学校の教育活動全般を通じて行われる道徳教育の要として、次のことを目標として進められることになりました。

よりよく生きるために基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方にについての考え方を深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【小学校指導要領】

「よりよく生きる」とは、いつたいどういうことを言うのでしょうか。人によってその価値観は異なるでしょうが、自分の生き方に誇りをもち、堂々と胸を張つて日々の生活に満足感と充実感を得ながら過ごすことはないでしょうか。

「偉人」と言われる人々は、それぞれの時代を精一杯生きました。世間の人々から「変わり者」と後ろ指を指された人もいました。ある時は、絶対絶命の窮地に立たされました。しかし、いつも自分の信念に従つて、努力によって困難を克服し、偉大な足跡を世の中に残しました。おそらく、彼、彼女らは、自分の生き方に誇りをもち、充実感を味わいながら過ごしていくに違いありません。

教育基本法第一条は、教育の目的を「人格の完成を目指す」と定めています。国語や社会、算数や理科といった教科を学ぶ目的は、一流大学や一流企業に入るためではありません。自分の夢を実現するために努力することに楽しみを見い出し、社会や人の役に立つことに喜びを感じて、充実した毎日を送るために必要な

力の基礎を身につけるのが学校教育なのです。学校が、「充実した生き方をするために必要な力の基礎を学ぶ場」であることが忘れ去られた結果が、何をするにも無氣力な子や、人を死に追いやるまでいじめを続ける子を増やしてしまったとも言えます。

「人は人によつて人になる」というカントの言葉にもあるように、子どもは、大人をモデルにして成長していくきます。偉人たちの生き方を伝えることは、どのように生きるべきか、何を大切にして生きるべきかといつたことを、子どもにイメージさせることになります。そして何よりも、「こんな人にになりたい」「こんな生き方をしてみたい」という、憧れや目標をもたせることになります。偉人と呼ばれるようになった人々も、最初からすごい人間だったわけではありません。少年少女時代に出会った偉人の伝記や、尊敬する人物に影響を受け、目の前の苦難や障害を乗り越えて力強く生きたのです。先人たちを目標にして夢や希望を抱き、未来を切り開いていったのです。

元来、「未来」への夢や希望を抱いて日々の生活を送ることが、子どもたちの生きる力の源であるはずです。価値観の変化かつ多様化によって、目標となる未来像を描きづらくなっている今の時代だからこそ、子どもたちは、手本となる生き方や考え方を教えることが必要です。道徳教育の要として、道徳が教科となつた今こそ、偉人の生き方を通して自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めさせる時です。

本書を活用していただきことによつて、目の前の子どもたちが、「よりよく生きたい」と思える道徳の授業づくりのお役に立つことができれば光榮です。

二〇一八年春

中嶋 郁雄

もくじ

はじめに 3

第1章 自己を見つめ成長していくために ——人生を切り開く力を育てよう

織田信長	10
徳川家康	
伊能忠敬	13
津田梅子	16
夏目漱石	19
樋口一葉	22
白洲次郎	25
湯川秀樹	28

Column 1

人生の指針としての偉人伝 34

—相手の立場になって考えよう

豊臣秀吉	36
真田幸村	39
杉田玄白	42
二宮金次郎	45
与謝野晶子	48
松下幸之助	51
円谷英二	54
本田宗一郎	57

Column 2	手元わくの贈り物	60
----------	----------	-------	----

第3章 努力し挑戦する「自分」と向き合ったために

—強い生き方を目指そう

間宮林蔵	62
御木本幸吉	65
南方熊楠	68

野口英世	
平塚雷鳥	
黒澤明	
手塚治虫	
植村直己	
	83 80 77 74	71

Column 3	「瞳」をもつてみる幸せ	86
----------	-------------	-------	----

第4章

より広く人や社会と関わるために

—みんなの幸せを考えよう

聖徳太子	88
北条時宗	91
平賀源内	94
勝海舟	97
西郷隆盛	100
福澤諭吉	103
坂本龍馬	106
高杉晋作	109

Column 4 人の喜びを自分の喜びにする

112

第5章

いのちや自然、崇高なものと関わるために

—「生かされている」と謙虚になろう

第1章

自己を見つめ 成長していくために

—人生を切り開く力を育てよう



目標に向かって、やるべきことを着実にやり抜くことが、
夢や理想を実現するための唯一の方法です。
自主・自律の大切さや誠実な生き方を、偉人から学びましょう。

おわりに

139

Column 5 偉人の名言を教室に

138

行基	114
一休	117
吉田松陰	114
田中正造	120
宮沢賢治	126
杉原千畝	129
沢田美喜	132
金子みすゞ	135

伊能忠敬

一七四五五年一月一一日～一八一八年五月一七日

「人生ふた山」

——五十歳から全国を歩いた測量士



教科書でよく目にのする日本地図。みなさんの中に、自分たちが住んでいる日本がどのような形をしているか知らない人はいないでしょう。私たちが知っているような正確な日本地図ができたのは、今からおよそ二百年ほど前、伊能忠敬という人によつてつくられたものです。

忠敬は、一七四五五年（今からおよそ二七〇年くらい前）、現在の千葉県で生まれました。十八歳の時に造り酒屋だった伊能家の養子になり、造り酒屋の仕事に励みました。忠敬は、商人としてとても才能のある人で、落ちぶれていた伊能家を立て直して多くの財産を築きました。また、人々からの人望もあり、村の重要な役職にもつきました。

伊能家を発展させた忠敬でしたが、五十歳になると家の仕事を子どもに譲り、引退しました。ここ

で普通の人ならゆっくりと老後を楽しむところなのでしょうが、忠敬は違いました。

忠敬は、江戸に行つて、天文学（宇宙や星を研究する学問）を学び始めました。

「正確な子午線一度の長さを確かめてみたい」

忠敬は、先生のもとで天文学を学ぶうちに、そんなことを考えるようになりました。そのため忠敬は、天文学に加えて測量術も勉強しました。

子午線一度の長さを測るためには、遠く離れた場所の距離を正確に測つて計算しなくてはなりません。忠敬は、子午線の長さを確かめるために、江戸（東京都）から蝦夷地（北海道）まで、六か月かけて測量しました。もちろん、その頃は自動車などはありません。五十五歳になつた忠敬は、東京から北海道までの距離を歩きながら測つていつたのです。

この時の測量で、忠敬は子午線一度の長さを一一〇・八五キロメートルと確かめました。現在の測量が一一一キロメートルですから、忠敬の測量は、驚くべき正確さであったといえます。

この測量の旅を続けるうちに、忠敬に次の目標ができました。

「日本の正確な姿を、地図に残したい」

忠敬は、地図をつくるために何度も旅に出かけるようになりました。

地図づくりの旅を続けて、日本全国の測量を成し遂げた時、忠敬は七十二歳になつていました。忠

敬が測量を始めてから十七年が経つしていました。

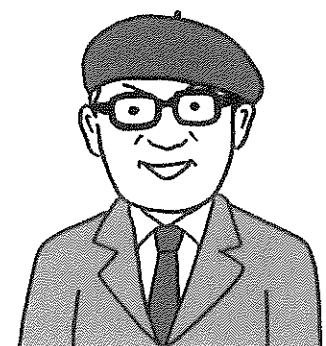
忠敬は、全国を測量して回った資料をもとに、日本全図の作成に取りかかりました。
しかし、地図が完成する前に、七十四歳で亡くなつてしましました。

手塚治虫

一九二八年一月三日～一九八九年一月九日

「人に自慢できるものをもつことが、
本当の幸せなのです。」

——子どもたちに夢をあたえた大漫画家



手塚治（治虫）は一九二八年（昭和三年）に大阪で生まれ、五歳から兵庫県宝塚市で育ちました。治の父親は会社員でしたが、若い頃は漫画家になりたいと思つていました。それで治の家には、当時は珍しかった漫画の本がたくさんありました。

小学二年生の時、家族で映画を観ました。ディズニーのミッキーマウスやドナルドダックを観て、治は感動しました。そんなある日、父親が手回しの映写機を買つてきました。家の部屋の壁に映し出されたミッキーマウスの姿を見て、治はすっかり漫画に夢中になつてしまつたのです。

治は、よく漫画を描いては友だちに見せていました。治の描いた漫画は、クラスのみんなに大人気でした。先生までもが、治の漫画のファンになつてしまい、学校の道具で印刷をすることまで許可し

てもらつほどでした。

小学五年生の時、治は友だちに昆虫図鑑を見せてもらい、昆虫の世界に興味をもちました。そして、「オサムシ」という昆虫がいることを知りました。この虫をとても気に入つた治は、漫画や絵に「治虫」とサインするようになりました。こうして、「手塚治虫」という名前が誕生したのです。

治が中学生の頃は、戦争の激しい時代でした。そのため、治の中学校でも授業がなくなり、生徒は工場で働くことになりました。そんな中でも、治は少しの休み時間を利用して漫画を描き続けました。治は描いた漫画を、自分たちだけが使うトイレの壁に毎日貼つて、友だちを喜ばせました。戦争で建物が焼かれ、大勢の人が死ぬのを見た治は、戦争の悲惨さと命の大切さを嫌と言つほど思い知らされました。この戦争の体験は、後の治の作品に大きく影響をあたえました。

戦争が終わって、治は医者になる学校に通いながら漫画を描き続けました。新聞に連載した四コマ漫画がヒットすると、長編漫画『新宝島』を描くことになりました。『新宝島』で治は、漫画の手法を取り入れて漫画の新しい可能性を引き出しました。

その後も、治は大学に通いながら漫画を描き続けましたが、医者と漫画家のどちらになるか迷つていきました。お母さんに相談して、「自分は漫画が好きだ」ということを確かめた治は、漫画家として生きる決意をしました。漫画家「手塚治虫」がこうして誕生したのです。

漫画家手塚治虫は、『鉄腕アトム』『ジャングル大帝』『ブラック・ジャック』など素晴らしい作品を次々と雑誌で発表していきました。そして、家庭で普及したテレビを通じて、アニメーション作品にも次々と挑戦したのです。治虫がつくった漫画やアニメーションに、子どもたちは夢中になりました。